



2012年11月2日

各位

会社名 ハリマ化成グループ株式会社
代表者名 代表取締役社長 長谷川 吉弘
(コード番号 4410 東証第一部、大証第一部)
問合せ先 常務取締役 金城 照夫
(TEL. 06-6201-2461)

第2四半期連結累計期間業績予想と実績との差異、為替差損の計上および

通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2012年5月11日に公表しました2013年3月期第2四半期連結累計期間(2012年4月1日～2012年9月30日)の業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたこと、2013年3月期第2四半期連結累計期間(2012年4月1日～2012年9月30日)において、為替差損の計上を行うことおよび最近の業績の動向等を踏まえ、2013年3月期の通期(2012年4月1日～2013年3月31日)の連結業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

I. 業績予想値と決算における実績値との差異について

2013年3月期第2四半期連結累計期間業績予想と実績の差異(2012年4月1日～2012年9月30日)
(単位:百万円, %)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	33,500	700	750	200	7.71円
今回発表実績(B)	32,906	443	△215	△534	△20.61円
増減額(B-A)	△593	△256	△965	△734	—
増減率(%)	△1.8	△36.6	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2012年3月期第2四半期)	37,079	2,395	1,662	1,011	38.96円

II. 差異が生じた理由

当第2四半期累計期間の業績は、欧州を主力市場とするローター社が、欧州景気の影響を受け、低迷し、原材料としています粗トール油の価格上昇に伴い、ハリマエムアイディ社の収益が減少しました。その結果、売上高、営業利益につきましては、前回の予想を下回りました。

また、経常利益、四半期純利益につきましては、後述の「III. 為替差損の計上について」に記載のとおり、為替差損を営業外費用に計上したため、前回の予想を下回り、赤字の実績となりました。

Ⅲ. 為替差損の計上について

昨今の為替相場の変動により、2013年3月期第2四半期連結累計期間において、為替差損635百万円を営業外費用に計上いたします。これは、主に2013年3月期第2四半期末時点における外貨建資産・負債を同日の為替相場で評価したことにより生じたものです。

なお、通期の為替差損益の額につきましては今後の為替相場の動きにより変動いたします。

Ⅳ. 業績予想の修正

2013年3月期通期連結業績予想数値の修正（2012年4月1日～2013年3月31日）

（単位：百万円，％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	68,000	2,100	2,000	700	26.98円
今回修正予想(B)	65,000	770	340	△450	△17.34円
増減額(B-A)	△3,000	△1,330	△1,660	△1,150	—
増減率(%)	△4.4	△63.3	△83.0	—	—
(ご参考) 前期実績(2012年3月期)	71,535	3,114	2,159	1,011	38.99円

Ⅴ. 修正の理由

世界経済は、欧州における債務危機の問題もあり、また、国内経済も円高により、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの関連する業界であります、印刷インキ・塗料・合成ゴム・製紙・自動車・電機業界におきましても、依然として厳しい状況が続いております。

このような環境下、当社グループは、欧州市場を主力とするローター社の業績が低迷し、粗トール油の価格上昇に伴い、ハリマエムアイディ社の収益が減少するため、売上高、営業利益につきましては、前回の予想を下回る見込みとなりました。

また、経常利益、当期純利益につきましては、前述の「Ⅲ. 為替差損の計上について」に記載のとおり、為替差損を営業外費用に計上することにより、前回の予想を下回る見込みとなりました。

※上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

以上